



# DMI 国際ろう者支援会 日本

## 2014 年 冬号

DMI 支援者の皆様へ

新年初めのご報告です。日頃は DMI の働きをご支援くださりありがとうございます。昨年 11 月の台風 30 号の被害の後、多くの義援金が寄せられたことに心から感謝します。日本から 858,860 円の義援金を贈ることができました。ありがとうございました。

### DMI のエグゼクティブ・ディレクターの来日

DMI の創立者でありエグゼクティブ・ディレクターのネヴィル・ミュアー師は、フィリピンを訪問した後、4 月 4 日から 14 日まで来日いたします。台風で大きな被害を受けたサマル島にも行く予定にしていますので、来日中は被害や復興についてもご報告できると思います。ミュアー師は、みなさま方にぜひお会いしたいと願っています。また、ろう者に手を差し伸べる働きに参加したいと願っておられる方々を見つけ出したいとも願っております。日曜日の予定は決まっていますが、平日に行われるみなさまの教会の家庭集会や婦人集会、また友人どうしの集まりにぜひお招きください。ご希望の日時をご連絡くだされば、ご訪問できるようにアレンジをさせていただきます。どうぞアレイン・マドレ (Tel.

075-871-8562 Fax. 075-872-1981  
Mobile 090-1028-8844 or email:  
alaynemadore@mbr.nifty.com) ま  
でご連絡ください。

### 第 6 回 DMI 国際大会

隣国の韓国で開催される大会に日本から多くの方々 (ろう者・健聴者) がご参加くださることを願っています。韓国 DMI から以下のようなメッセージが届いています。

DMI は 3 年ごとに関係国を巡回して国際大会を開催してきました。本年、第 6 回 DMI 国際大会が、DMI の創立の地である韓国で開催されます。DMI は 1979 年、ネヴィル・ミュアー夫妻によって韓国ソウルに設立され、ここから世界のろう者に向けての宣教が始まりました。それから 35 年、DMI による宣教の実である私たちは、歴史的意味の深いソウルの地に集い、神の御国の拡大のために初心に戻って頑張ろうとしています。私たちは、名誉ある開催地となったことを心から嬉しく思い、多くの方々が 2014 年 10 月 7 日から 11 日までハイソウルユースホステルに集ってくださることを願っています。どうぞご参加ください。皆さまを心より歓迎いたします。(DMI 日本のホームページにビデオも載っています)

It is now possible to set up **automatic** monthly transfers from your own bank account to DMI! ご自分の銀行口座から DMI の献金口座に毎月、**自動振替**で送金することが可能です。

- From a postal account ゆうちょ銀行の口座から：  
14330-10176511 口座名 DMI
- From another bank 他の銀行の口座から：  
ゆうちょ銀行、438 支店  
口座番号 1017651  
口座名 DMI

However, for manual transfers we recommend continuing to use DMI's original Furikae account, as the fee is lower. 自動振替をなさらない方は、送金手数料が安価ですので、従来どおり振替口座へ送金をお勧めいたします。

大会の参加費は ¥50,000 です。この中には経済的に恵まれない国からの参加者を支援する献金が若干ですが含まれています。詳細については次号のニュースレターでお知らせいたします。今からカレンダーに印をつけて祈り始めてください。DMI 国際大会は、老若男女、ろう者、健聴者、すべての方々にとって恵みに満ち溢れたものです。どうぞご期待ください。

日本 DMI 理事会を代表して

アレイン・マドレ



**Deaf Ministries International**

**DMI 日本部**

Web: <http://japan.deafmin.org>

Email: [info@japan.deafmin.org](mailto:info@japan.deafmin.org)

郵便と電話は、大阪インターナショナルチャーチ：  
〒540-0004 中央区玉造 2-26-47-407  
Tel/Fax: 06-6768-4385

**DMI 国際本部 (オーストラリア)**

Web: <http://deafmin.org>

Email: [muir@deafmin.org](mailto:muir@deafmin.org)

P.O. Box 395 Beaconsfield Vic. 3807  
Australia

Tel: +61-3-5940-5430

Fax: +61-3-5940-5432

## 本部のスポンサーシップ・コーディネーター、ジェニー・リードの手紙 (昨年 12 月) からフィリピンの部分を抜粋しました

支援者の皆様へ

学校運営と自立支援のためのみなさまの援助に心から感謝いたします。DMI の各学校は、感謝なことに設備が充実し教育レベルも向上していますが、同時に経費も増えています。年長の生徒の多くは政府公認の高校卒業資格を取得して大学に行ったり手に職をつけようとしていたりして、将来の自立に備えています。ウガンダの教育実習生たちは準教師としてろう学校に就職したり、大学に戻って正教員免許の取得を目指して学んだりしています。フィリピンのダバオの卒業生は教員補助として学校に就職しました。リガオの自活プログラムでは 20

人以上の若者が、簿記などの商業実務を学び小規模ビジネスを立ち上げて自立することを目指しています。これは新しい試みですが、成果を上げています。ろう者たちは、自立した幸福な人生を歩むために、成功体験を重ねて自分にも出来るという自信を培おうとしています。

多くの方からフィリピンの台風の被害に対する義援金をいただきました。感謝とともに、今回はフィリピンの現状報告をさせていただきます。

## リガオ

感謝なことに、私たちの学校が巨大台風 30 号によって大きな被害を受けることはありませんでした。農場のトウモロコシとココナッツは台風が来る前に早目に収穫しました。稲刈りも 10 月に終わっていました。15 頭ほどの子豚は安全なところに移しました。この学校は外国からのボランティアを心から歓迎しています。この方たちは修理や塗装の奉仕をしてくださり暖かい交わりをしてくださいます。このような機会は、生徒たちが初対面の人に萎縮しない訓練になります。ありのままの自分でよいという健全な自信を持つ助けになっています。オーストラリアのバリー牧師はいくつものボランティアチームを率いて奉仕してくださいました。彼は今年の 9 月の祝会の講師としても奉仕されます。祝会にはパレードやスポーツイベント、感謝会などが計画されています。中学校の生徒数が増加し、パソコンの献品もあって、より良い学びができると考えています。

ビコル自活プログラムは大きな成果を上げています。自宅で洋服の仕立、手芸、フードショップ、ネイルアートをしたり、仕入れた商品を小分けにして売るといふ小規模な商売に必要な基本的な簿記を教えています。フードショップとは、ナッツや菓子類、水餃子、自家製ピーナッツバターなどを行商したり屋台で売ったりすることです。この新たな試みはろう者の青年たちに健全な自信を与えており、実に喜ばしいことだと考えています。また DMI 学校は、地域の「栄養月間」「ろう啓蒙週間」「障害と予防月間」などに参加しました。ビコル大学の大学院は、DMI の生徒たちの学習を支援する一日ワークショップを開催しました。



## ボロンガン (サマール島)

サマール島は台風 30 号で大きな被害を受け、多数の人命が失われたタコルバン市の隣の島です。ボロンガンは死者こそ少なかったものの多数の家屋が壊れました。非常に悲しいことに、私たちの学校の数名の生徒たちが死亡しました。まだ村々にいる生徒については、まだ行方の分からない人もいます。



ボロンガンの寄宿舎は借家でしたが被害がひどく補修はできません。それは政府によって閉鎖され、生徒たちは家に帰されました。リーダーのロデルはネグロス島のザンボンゲイタにろう者の少年を迎えにいき、台風が通過してから徒歩で 5 日かけて帰ってきました。数日間は水も食糧も無かったといひます。彼はボロンガンで生徒たちの安否を確認しようとしています。手間取っているようです。私たちはとても心配しています。ロデルはろう者であるだけでなく視力にも問題があるのですが、移動手段は自転車です。これで何十キロも移動するのは。私は彼の無私の愛に感動します。必要とあれば 24 時間ケアを惜しまないのです。

## バコロド (ネグロス島)

バコロドの寄宿舎の生徒たちは既に学校生活に戻っています。食糧が不足して普段どおりの食事はできませんが、それでも生活は徐々に落ち着いてきています。年長の生徒たちは交通費を支給されて自宅から通学しています。年少の生徒たちは寄宿舎から学校に通っています。生徒たちは過酷な幼少期を送ったので、教育の機会を得たことに非常に感謝して熱心に手話を学び、学業に勤しみ、ろう者の友だちをたくさん作っ





バコロド

ています。彼らの親たちは学校に行くことはできませんでした。辺鄙な田舎の村で最低レベルの収入で暮らし、健聴児でさえ学校に行かせることは大変です。スポンサーの助けが無ければ、耳の不自由な子どもの教育は非常に難しいのです。

### ダバオ (ミンダナオ島)

感謝なことにダバオのDMI 学校は台風 30 号の影響をほとんど受けず、数日の休校の後、学業を再開できました。ここでは最近、校名を変更しました。その理由は、役所がここをインターナショナルスクールだと勘違いしたからです。



です。それで新しい名前では、DMI の I は「インターナショナル」ではなく「インスティテュート」になりました。

現在 42 人の大学生、39 人の中高校生、26 人の小学生、6 人の幼稚園児が良いレベルの教育を受けています。学業に加えてボーイスカウトやガールスカウトに加入が奨励されています。野外活動の体験とともに健聴の生徒たちとコミュニケーションを取ることを学ぶことができます。学校には生徒会もあります。学校の意思決定に自分たちも加わったり、校則を作ったりします。

### カガヤンデオロ (ミンダナオ島)

ダバオのヨシュア・ジュニアとジョセリン・アスエラが指導した自立のためのプロジェクトが成果を上げています。養豚は非常にうまくいっています。ゴム園の樹木は、ラテックス（天然ゴムの樹液）を採取できるようになりました。数人のろう者が就労しています。ヨシュアとロウエラ夫妻の家には約 20 人の生徒たちが居候しています。政府が寄宿舎を閉鎖させてしまったからです。ふたりはこの生徒たちを学校まで毎日送迎しています。寄宿舎を建てようとしていますが、現在のところは、女の子は事務所の一室で、男の子は農場の小屋で全員雑魚寝といった状態です。



カガヤンデオロは台風の強風や豪雨の影響で洪水に見舞われましたが、建物の崩壊は少数でした。建築中の寄宿舎は 10 月の地震で損壊し修理中でしたので、今回被害を受けなかったのは幸いでした。しかし、修理用の資材の一部は洪水で流されて見つかっていません。

### クリスマスカード

生徒たちはスポンサーにクリスマスカードを書いたのですが、その日、病気などで欠席していた生徒もいました。もし、スポンサーをしている生徒からクリスマスカードが届かなかった方がおられましたら、誠に申し訳ございません。

スポンサーや支援者の方々に心から感謝いたします。みなさまの祈りや配慮、また経済的な支援なくしてこの働きをつづけていくことはできません。私たちは皆、みなさまに心から感謝しています。

よい年をお迎えください。

ジェニー・リード

ボランティア・スポンサーシップ・コーディネーター

Email: jenny.reid@deafmin.org

# DMI JAPAN Winter 2014

## - English -

Dear DMI supporters.

Greetings at the beginning of another year. Thank you for your continuing support for the work of DMI worldwide. A special thanks to all who sent special gifts to assist in the Philippines following the typhoon last November. From Japan we were able to send ¥858,860 to assist there. Thank you so much.

### **Visit of Executive Director of DMI**

This year we are looking forward to having Neville Muir, Founder and Executive Director of DMI, visit Japan from April 4th to 14th. Before coming here he will be in the Philippines and hopes to visit Samar where the brunt of the typhoon was felt. So he will have up-to-date news on what is happening there. While he is in Japan he would like to meet as many of you as possible and also find other people who would like to help support this wonderful

work among deaf people. Sundays are full but any other day is OK. A ladies meeting, a home group, a few of your friends... please let us know and we will try and arrange for him to visit with you. Please contact me, Alayne Madore, Tel. 075-871-8562 Fax. 075-872-1981 Mobile 090-1028-8844 or email: alaynemadore@mbr.nifty.com.

### **6th DMI International Conference in Korea**

Being so close to Japan, we are hoping lots of people from Japan, both hearing and non-hearing, will attend. The following is a message from the DMI folk in Korea:

*Every 3 years DMI holds an International Conference in one of the countries where DMI is working, and this year the 6th Conference is going to be in South Korea, where DMI started. In 1979 the Muirs founded*

*DMI in Seoul, and from here it expanded worldwide. We are looking forward to having many people, who are the fruit of this ministry over the past 35 years, come to the historical city of Seoul to participate in the conference October 7-11 at the Hi Seoul Youth Hostel. We trust it will be a time when we will each be revived with the spirit we had in 1979 – to spread the Kingdom of God around the world. (There is also a video on the DMI Japan website.)*

The cost of the conference will be ¥50,000, which hopefully will include a small donation to assist folk from poorer countries to attend. We will give you more information in our next letter, but be sure to write the dates on your calendar! Every conference is such a blessing to all who attend.

Alayne Madore  
Chairperson, Japan DMI Board

### **Philippines portions of newsletter by Jenny Reid, International Sponsorship Coordinator, December 2013**

(See photos in Japanese newsletter)

Dear Sponsors and Supporters,

We are very grateful for your ongoing financial support of our schools and self help projects. It is a joy to report to you that education facilities and learning standards in our schools are rising, but so are our expenses. Many of our older students are completing formal education and then gaining tertiary qualifications or vocational skills that enable them to eventually support themselves. The Trainee Teachers in Uganda either have junior teaching positions in schools for the deaf or are returning to Teachers College to gain diploma teaching qualifications. Graduates from Davao in the Philippines have also gained assistant teaching positions in schools there. The Bicol Livelihood Program at Ligao in the Philippines has more than 20 young deaf adults learning business accounting and practical skills and starting small home businesses to support themselves. This is a new initiative and is proving very successful. Deaf people are gaining confidence and achieving

success that helps them lead happy independent lives.

Many of you have given to help following the typhoon in the Philippines, so I will give you an update on the situation there.

### **Ligao**

We are very thankful that super typhoon Yolanda did not cause great damage to the school. The corn and coconuts were harvested quickly before it arrived, the 15 or so pigs were well rugged up beforehand and the rice crop had already been harvested in October. They love having visitors at Ligao and really appreciate the work teams that have come to do painting, and repairs, and also the fun times together. This interaction also encourages the students to communicate with new people and is a boost to their self confidence. Pastor Barry Cutchie from Australia has led many work parties to Ligao. He was the speaker at Ligao's Foundation Celebration in September that also included a motorcade through the streets, a sports festival and thanksgiving program. There is an increase in secondary students and donated computers enhance learning opportunities for all. The Bicol Livelihood Program mentioned above is very successful and deaf people have learned simple bookkeeping needed to



document their small businesses that include sewing, handcrafts, food, manicure in clients' homes and on-selling of products purchased in bulk. We are very pleased that this new initiative is giving confidence to these young deaf people. Various foods including nuts, dumplings, peanut butter and candy, are cooked and sold door to door or at roadside stalls. The school participated in Nutrition Month, Deafness Awareness Week, and Disability and Prevention Month. The Bicol University Graduate School conducted a one day program to encourage the students in their study.

### ***Borogan on Samar Island***

Samar Island is the next island east of Tacloban city where many thousands lost their lives and major destruction occurred during Typhoon Yolanda. Borongan did not suffer as much loss of life but many buildings were damaged. We are greatly saddened by the news that one of our students perished in the typhoon, and we have not been able to find out about our other students who lived in villages on Samar island.

The dormitory in Borongan was a rented property and is too damaged to rebuild. The government had closed the schools and students were sent home. Rodel our leader had gone to Zamboanguita on Negros Island to bring a young deaf man home. It took them five days to walk back after the typhoon passed. There was no water or food so they returned to Bacolod for some days. Our leader, Rodel has now returned to Borongan and is attempting to find our students or their family members but we are very worried about them. As well as deafness he also has sight problems so only rides a bicycle to travel to villages many kilometres from Borongan. The unselfish love of our leaders who give the students 24 hours care if needed, is amazing to me.

### ***Bacolod on Negros Island***

The Bacolod Dormitory was not very damaged and the students have returned to their schools now. Food supplies are still restricted but life is getting back to normal. Some of the senior boys travel from their homes to school at our expense now they are older, but the younger children still stay at the dormitory in Bacolod. These students are eager learners who have experienced hard times in their early years. They are very grateful to have the opportunity to learn to sign, have deaf friends and go to school.

Many of their parents are not educated themselves and live in small remote villages on very meagre incomes. Some cannot afford education for their hearing children so sadly their deaf children might not be not educated without kind sponsors.

### ***Davao on Mindanao Island***

Thankfully the Deaf Ministries Institute at Davao was not affected by the typhoon this time

and after a brief disruption to classes the students have returned to their studies. The school's name has been changed recently because the Ministry of Education thought that 'Deaf Ministries International School' implied that it was an international school. So it is now **Deaf Ministries Institute**. There are 42 College students, 39 in High School, 26 in Primary and 6 in Pre-school and a high level of education is offered to them. As well as formal education the students are encouraged to join the Boys and Girls Brigade where they learn a variety of out-door skills and communicate with hearing people. The school also has a Student Government body that plays an active part in decision making and practical implementation of school rules.

### ***Cagayan De Oro on Mindanao Island***

There are two very promising self help projects that were started by JR (Joshua Junior) the son of Joshua and Jocelyn Asuela in Davao. The piggery is highly successful and the rubber plantation has started to produce latex. Several deaf people are employed at these projects. JR and his wife Louella are currently sheltering about twenty deaf students who had nowhere to stay when the government closed the dormitory. They are building a dormitory for these students and driving them to and from school each day. However at this time all the girls sleep side by side in one room at our headquarters and the boys sleep side by side in a small house at the farm.

During the recent typhoon Cagayan de Oro experienced very high winds and extra heavy rainfall that caused flooding but most permanent buildings did not receive major damage. That was good because we had not been able to repair our half built dormitory that was damaged in an earthquake in October.

But our building materials were washed down the street. Some were later rescued from the mud a few streets away and can be used to continue building the dormitory.

### ***Christmas Cards***

I am sorry if you have not received a Christmas Card from your sponsored student this year. We try to arrange for all students to make Christmas Cards for their sponsors but some students may be sick or absent from school on the day they made the cards. I apologize if your student was absent and you do not receive a card this year.

Thank you Sponsors and Supporters. This work could not continue without your interest and financial contributions. We are all very grateful to you.

Best wishes for Christmas and the New Year.

Jenny Reid: Voluntary Sponsorship Coordinator  
Email: [jenny.reid@deafmin.org](mailto:jenny.reid@deafmin.org)  
Tel. or text in Australia: 0411 118 507